

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立北中道小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	東成区
学 校 名	大阪市立北中道小学校
学 校 長 名	矢寺 勝彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立北中道小学校では、第6学年 39名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立北中道小学校の結果概要

国語科、算数科においては全国平均より下回った。平均無回答率は国語科、算数科においては全国平均より上回っている。昨年度より算数科を研究教科として、本年度は「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く算数科の指導」として算数科の研究を進めてきている。研究を柱におきながら、引き続き課題を明確にしながら取り組みを進めていく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

全国平均より「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で下回っている。「書くこと」にくらべ「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国平均より下回る幅が大きい。今年度、算数科で行う研究主題「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く」にそって研究を進め、算数科で研究していることが国語科にもいかせるように授業改善を行っていく。

【算数】

全国平均より「測定」の領域と比較し「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」下回る幅が大きい。研究教科の算数科においても、課題を明確にし「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く」研究を進めるとともに、個別最適な学びにつなげ、基礎基本の定着を図っていく。

質問調査より

「自分には、良いところがあると思う」に対する肯定的回答は92.5ポイントとなり大阪市平均、全国平均を上回っている。「将来の夢や目標を持っている」に対する肯定的回答は87.5ポイントで全国平均、大阪市平均を上回った。キャリア教育を進めてきた成果が出てきたことがうかがわれる。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対する肯定的回答は90.0ポイントで全国平均、大阪市平均を上回った。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」に対する肯定的回答は87.5ポイントで全国平均、大阪市平均を上回った。今まで取り組んできている「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く」の研究の心情面での成果が児童の実感として表れていることがうかがえる。

今後の取組（アクションプラン）

・大阪市学力向上支援チーム事業を活用し、スクールアドバイザーによる国語科・算数科の授業改善を行うとともに、今年度は、研究教科を算数科に設定し、算数科で外部講師を招聘したり、夏季には、その他外部講師による研修会も実施したりして、教員一人一人の授業力を高められるように継続して研修を行っている。その中で「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く」指導法について研究を深め、授業改善に努め、子どもたちの学力向上につなげていく。

・意欲的に学習に取り組む児童を育てるために、自主学習（北中スタディ）に取り組み、家庭でも学習する児童を増やしていけるように指導を進めていく。

・子どもたちが、自分の思いや考え思いを、表現できる場の設定を工夫し、話し合い活動を充実させていく。